

- 昭和 12年 (1937年) • 330メートル上流にせきをつくりかえた。
- 昭和 20年 2月 (1945年) • 戸塚部落が加わって3地区の共同せきになった。
- 昭和 25年10月 (1950年) • コンクリートせきにつくりかえた。
- 昭和 49年11月 (1974年) • 電気を使った揚水ポンプで川の水をくみ上げて田に水を引くようになった。



▲工事前の我満せき

▼完成した我満せき



## (2) 疎水の恩人高沢孫左衛門

あれ地や干害を受けやすい土地に水を引いて、りっぱな耕地にする開田事業をなすとげた人は数多くありますが、関岡の高沢孫左衛門もそのひとりです。

孫左衛門は、この地で農業を営んでいましたが、土地の起伏が多く近くに水量が豊かな久慈川があるにもかかわらず、何度も何度も干害にあってききました。

そこで、明治28年(1895年)に孫左衛門は、江戸塚・上小坂・下小坂の3地区の農民たちといっしょに開田の工事に着手しました。

工事は、6か月で終わりましたが、約2,500円の費用をかけ用水ぼりをつくり、あれ地を開田しました。